



令和7年度文化祭「煌星連結～みんなで協力 個性が輝くすばらしい舞台へ～」が輝きとともに終わりました。ロンドン日本人学校での素敵な思い出がまたひとつできましたか？

9月27日（土）の保護者公開日に開催されたロンドン日本人学校の文化祭「煌星連結～みんなで協力 個性が輝くすばらしい舞台へ～」は、多くの笑顔と拍手に包まれながら幕を閉じました。

■ ロン日の文化祭はどんなコンセプト？

- ❖ 昨年度からロンドン日本人学校では文化祭で各学年が「普段の学習」を土台にし、その成果を「劇」という形で表現することを大切にしています。たとえば小学部1年生は国語科「くじらぐも」の学習をもとに、小学部5年生は「総合的な学習の時間（ロンドンタイム）」で学んだことを題材にしました。中学部では、音楽の授業で取り組んだ「カップス」を取り入れ、テンポのよい場面を作り出しました。どの学年の劇も、単なる物語の再現ではなく、国語や社会、理科、道徳、総合学習など、日々の授業で培った知識や感性を結びつけたものです。児童生徒の表情には自信と誇りがあふれ、そのひたむきな思いが観客の皆さまにもまっすぐに届いたことと思います。

■ 「文化祭」での学びを整理しよう

- ❖ 振り返れば、この文化祭の準備期間そのものが、児童生徒にとって大切な学びの時間となりました。台本の読み込みや役づくり、舞台美術の準備、音響や照明の調整—どれも決して簡単ではありません。思いどおりにいかず悩むこともあれば、意見が食い違って戸惑うこともあったでしょう。それでも仲間と力を合わせ、困難を一つひとつ乗り越えていくなかで、かけがえのない気づきや達成感を味わうことができたはずですよ。

■ 「協力」と「対話」の重要性とは？

- ❖ その一つが「役割を果たすことの大切さ」でしょう。舞台上で演じる人だけでは劇は成り立ちません。大道具を支える人、音響を調整する人、衣装を整える人、パンフレットをつくる人、当日の運営を担う人—それぞれが自分の役割を誠実に果たし、互いを信じ合うことで、はじめて一つの劇が完成します。自分に託された場をやり遂げる責任感、仲間を信頼して任せる勇気、そして協力し合う喜びを、児童生徒は実感したことと思います。人類の歴史に目を向けても、私たちの祖先は「協力」と「対話」によって生き延びてきました。

- ❖ アフリカ大陸で誕生した人間は、他の動物のように力が強かったわけでも、俊敏だったわけでもありません。しかし人間には「ことば」がありました。声を使って複雑な音を紡ぎ、それを意味ある言葉として仲間と分かち合う力があったのです。その力で互いに助け合い、知恵を交換し合い、困難を克服してきました。今回の文化祭での劇づくりも、まさにその営みの縮図でした。自分の役割を果たすことに加え、仲間と関わり合い、調整を重ねることで、一つの作品が芸術として結実しました。そこには「自己調整」と「他己調整」の両方がありました。自分の役割を自覚して行動する力と、仲間からの助言を受け入れて行動を修正する柔軟さ。その両方があるからこそ、豊かな協働が実現するのです。

■ さあ、今から「対話」を実行しよう！

- ❖ 劇を通じて、自分の課題、仲間の思い、そして作品への熱意を分かち合えたとすれば、それは単なる学校行事の成功にとどまらず、児童生徒が「ロンドン日本人学校」という社会を自ら築き上げている証であり、誇らしい成長の一步です。
- ❖ これからの授業や学校生活の中でも、ぜひ「対話」を大切にしてほしいと思います。対話は知識を広げるだけでなく、相手を理解し合い、価値観を豊かにしてくれるものです。文化祭での経験を日々の学びに生かし、さらに大きく成長していったほしいと願っています。



小学部1年



小学部2年



小学部3年



小学部4年



小学部5年



小学部6年

